

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月7日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	① 教育活動の質的向上を図る。 ② 基礎的で基本的な知識や技能を身に付け、論理的に思考し、的確に表現する力を習得させる。	① 生徒が主体的・協働的に取り組むことができるよう学習環境を充実させ、さらなる授業改善を図る。 ② 知識・技能を身に付けられるよう学習活動の充実を図る。	① 体験的活動やグループ学習を行い、他者と協働して取り組む活動を行う。 ② 各教科においてICT機器等を積極的に活用し、組織的な授業改善を図る。	① 生徒が他者と協働して主体的に取り組むことができたか。 ② 各教科においてICT機器等を活用し、授業内容を工夫したか。授業改善に関する研修会を行ったか。	① 授業の中で生徒が考える時間を多く計画し、他者への共有を行うことで、主体的な活動を実践できた。 ② ICT機器を日常的に活用できるような授業づくりを組織的に実行した。	① 組織的な授業改善に向け、授業改善研修会の内容を工夫していく。 ② 生徒が意欲的に学習に取り組むために更なるICT機器の効果的な活用方法の研究が課題である。	① 組織的な授業改善研修を行い、生徒に身に付けさせたい力を共有し、授業内容を工夫した。 ② 学習意欲を高めるためにICT機器等を効果的に利用することができた。	① 組織的な授業改善に向けて、『主体的で対話的な深い学びの実現』をテーマに授業改善研修を2回実施した。また授業見学期間を設定し、全教員が授業見学を行った。各教科が、生徒が意欲的に取り組めるような授業作りを工夫した。教科横断的な研修会を実施し、更なる授業改善を進めていきたい。 ② ICT機器等を活用することにより、生徒の学習意欲の向上に役立つため、今後も組織的、計画的に活用を進めていきたい。更なる効果的な活用方法を共有していきたい。	① 生徒に身に付けさせたい力を共有し、そのための方策を、授業改善研修会の中で更に研究していく。 ② 生徒の一人一台端末を活用する機会を設ける。ICT機器の活用による学習の利便性向上や、各教科での活用方法を研究する機会や研修会を実施する。
2	生徒指導・ 支援	① 規範意識や基本的生活習慣の定着を図る。 ② 教育相談体制を充実させ、コミュニケーションをとりながら、課題解決に向けて取り組める人材の育成を図る。	① 「一人が一人を代表する」を理解させ、社会の一員である自覚を持たせる。 ② 教育相談を活用し、生徒情報の共有を積極的に行う。また、部活動とおし周囲とのつながりを深め、課題解決に取り組める人材育成を図る。	① 毎月の身だしなみ指導を軸に、日常的に規範意識の醸成・定着を図る。 ② 生徒情報を共有し、長欠傾向の生徒への相談等を早期に多角的に行う。また、部活動内のコミュニケーションを円滑にするために、活動内容を工夫する。	① 特別指導の件数が昨年より減少傾向にあるか。 ② 長欠者数が昨年と比べて同等以下に抑えられたか。また、部活動での課題を生徒たち自身で解決することができたか。	① 身だしなみ指導のみならず、日常的に規範意識を持たせる指導を行った。 ② 生徒情報の共有を密にし、支援を積極的に行った。部活動で生徒が主体的に課題解決や目標達成に向けて努力できるように活動した。	① 特別指導の増加傾向を止めることができなかった。丁寧で粘り強い指導を繰り返す必要がある。 ② 長欠傾向の生徒が昨年と同程度あり、課題を抱える生徒への支援を、引き続き丁寧に行う必要がある。	① 引き続き、生徒一人ひとりに向き合うと共に、保護者の心情にも配慮する指導を行ってほしい。 ② スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用により、多様な対応を模索し、個々の生徒の成長をサポートしてほしい。	① 月に一度の身だしなみ指導に加え、校門指導や日常の指導をきめ細かく行い規範意識の醸成に努めた。また必要に応じて学校周辺の巡回なども行い、問題行動の早期発見・早期指導につなげることができた。しかし、特別指導の件数が昨年度を上回っており、引き続き粘り強い指導が必要な状況が続いている点は課題である。また、進路指導を前提とする身だしなみ指導についても生徒の状況に合わせて、丁寧に実施していく必要がある。 ② 支援が必要な生徒に対し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用や外部の専門機関との連携、ケース会議の開催など生徒の状況に合わせて細やかな対応を行うことができた。部活動については、各部がそれぞれの特色を活かし、生徒主体の活動を活発に行うことができた。	① 問題行動の未然防止・早期発見の観点から校門指導や巡回、身だしなみ指導の実施方法を見直すほか、生徒指導内規の見直しなどを通じて生徒の実情に合わせて指導できる体制を作る。 ② 生徒情報の共有に努め内外の最適なりソースの活用などを含め、更なる教育相談体制の充実を図っていく。部活動では各部の特色に合わせて、引き続き課題解決や目標達成に向けて努力する活動に継続して取り組む。
3	進路指導・ 支援	① 生徒一人ひとりの進路希望に応じたきめ細やかなキャリア教育の実践を図る。 ② 地域連携を通して、地域に求められる人材育成を図る。	① 多様な進路に応じたガイダンスの在り方や、生徒指導の在り方を決めていく。 ② 地域の特性をふまえ、人的・物的資源を活用した人材育成を図る。	① ガイダンスや模試等を活用し、生徒自身が熟慮し進路決定がなされるプロセスを重視する。 ② 県西地域に焦点を当て、企業や関係機関との連携を強化する。	① 模試やガイダンスを計画的に実施することができたか。生徒に進路関係情報を積極的に提示できたか。 ② 地元企業との関係性を深め、生徒に的確な進路情報を提供することができたか。特に就職希望者は内定率が100%であったか。	① 模試やガイダンス等は年度当初の予定通り、計画的に実施することができた。進路関係情報は校内の掲示板や、Google Classroom等を活用し積極的に実施した。 ② 積極的に情報提供に努め、本年も就職内定率は100%であった。	① 大学・短大進学希望者の大半は推薦や総合型選抜で進路を決めており、模試の在り方を検討する必要がある。 ② 就職希望者の就業意識の低下や、内定後の学校生活に対する意欲低下が課題となっている。	① 分野別や就職、進学、推薦ガイダンス等きめ細かく、生徒のニーズに応じたガイダンスを実施することができた。また、Google Classroom等を活用し、生徒の状況に応じた情報発信を行うことができた。 ② 就職希望者に対する情報提供を積極的に行い、就職後のミスマッチの未然防止に努めた。	① 3学年に関しては、進路別フィールドに分けニーズに応じたきめ細かい指導體制を確立することができた。また、他学年に関しても進路業者等を活用した講演会やガイダンスの実施に努めた。一方で大学進学者は総合型選抜など学力テストではない選抜方式での入学が増えており対策が必要である。 ② ハローワークや商工会と連携し、採用情報の提供や、就職に向けたガイダンス等を意欲的に実施することができている。一方で、就職希望生徒の就職に対する自覚や意識が低下している現状が見られ、早い段階での就業意識の醸成が必要である。	① 総合型選抜や、AO入試に対応できるように、模擬試験の体系を見直し、小論文指導や面接指導など生徒のニーズに応じた指導體制を再構築する。 ② 早い段階での就業意識醸成を図るため、3年次から実施していた就職ガイダンス等を前倒しして実施し、就職することの意義について早期より考えさせる機会を設定する。
4	地域等との 協働	① 地域と連携、協働した学習環境の確立及び発展を	① 地域協働学習実施支援員やコンソーシアムの活用	① 「総合的な探究の時間（未来探究）」を中心とした学習におい	① 地域人材や地域企業と連携協働し、コンソーシアム	① 町役場・地域企業の方を学校に招き、インタビュー調査を行	① 学校に来てもらうだけでなく、生徒自らがアポイントを取り、	① コンソーシアムや地域共同学習実施支援員と連携した授業内容により、地域課	① 今年度も多くの方に協力していただき、「総合的な探究」の授業を行うことができた。「山北町への報告会」でも、生徒が自身の言葉で考えを述べることができた。今後は、発	① 前述したように、今後は実際に行動した上での考察を増やしていく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月7日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		<p>図る。</p> <p>② 地域貢献に資する人材を育成する。</p>	<p>による学習の充実を図る。</p> <p>② 学校行事や地域行事、各教科等における地域と協働した学習を推進する。</p>	<p>て、地域人材や地域企業との協働学習を展開する。</p> <p>② 地域と学校の交流を積極的に行う。また、発表活動などを通して、他校種における生徒、児童及び教員との交流を推進する。</p>	<p>の活用を10回以上行えたか。</p> <p>② 行事や教科等において、地域と学校間の人材交流が推進されたか。</p>	<p>った。</p> <p>② 地域へのフィールドワークに行く際、事前学習として、地域の有識者に講演を開いてもらった。</p>	<p>実際に現地での調査につながるようにしていく。</p> <p>② 今後も、地域の方、企業の方と連携し、実際の現場での話を聞いたり、体験したりしていく。</p>	<p>題を自分事と捉え、具体的な対応策を考案することができた。</p> <p>② 山北町へのフィールドワークにより、地域課題を実際に体験することができた。生徒たちのプレゼンテーション力や探究活動への意欲の高まりも評価できた。</p>	<p>表することだけでなく、実際に行動してみた上での発表ができるようにしていく。</p> <p>② 3年生による「山北町への報告会」の他に、1・2年生合同での校内発表会を行うことができた。その際、協力団体・企業からも多くの方が来場し、参観していただくことができた。</p>	<p>② 発表会の際に様々な意見をいただいた。その意見を踏まえ、より深く探究活動ができるようにしていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>① 教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。</p> <p>② 社会の変化や、教育の進化に対応するための教職員のシステムマネジメント能力の向上を目指す。</p>	<p>① 職務内容の見直しを図るとともに、自発的なワークライフバランスの推進を図り、働き方改革を促す。</p> <p>② ICT活用の定着を図る。</p>	<p>① 既存の委員会を活用した小委員会を作り、働き方について検討する。</p> <p>② 出張や年休のシステムのマニュアルの改善を図る。</p>	<p>① 新たな働き方改革案を講じることができたか。</p> <p>② 可視化された分かりやすいマニュアルができたか。</p>	<p>① 企画会議の中で、業務改善できることがないかを図り、検討することができた。</p> <p>② 既存のものを利用し、システム入力を省ける流れを作ったが、マニュアルまでは作成できなかった。</p>	<p>① 今年度は、宿泊オリエンテーションについて業務改善を図ったが、それ以外でも改善を検討していきたい。</p> <p>② 次年度の課題とし、検討していきたい。</p>	<p>① 業務改善を図ることができた。今後も働き方改革の推進のため、継続して業務改善を図ってほしい。職員の意見を取り入れながら、具体的な改善案を提案し、実践してほしい。</p> <p>② 継続してICTの活用の推進を図り、社会の変化や教育の変化に対応してほしい。</p>	<p>① 働き方改革を推進するために、業務改善できることを職員全体の意見を聞き取りながら、検討することができた。その結果、宿泊オリエンテーションを宿泊を伴わずに実施することになった。振り返りを行い検証し、より良い実施方法を検討する必要がある。</p> <p>② ICTの利活用について、職員の負担にならないよう、他校での実践例などを情報収集し、無理なく活用できる方法を検討していく。</p>	<p>① 業務改善により変更した点について、振り返りと検証を行う。また、業務改善の検討を継続していく。</p> <p>② 研修などの機会を利用して、他校でのICT利活用の実践例の情報収集を図る。</p>